

## 2017年1月図書購入

No.	図書名	内容	著者名	出版社
1	いつ大災害が起きても 家族で生き延びる	防災のプロが伝えたい、助かるための具体的な行動とは。災害心理、日常備蓄、地震災害、津波災害、風水害…。事前に備えてほしいことや災害が起きた瞬間にすべきことをまとめる。大切な人を守る半径5メートルの防災手帖。災害時に人はどんな行動をとりやすいのか。周囲の空気に同調することなく、冷静に助かる道を選ぶためには。家具をどう配置すれば、地震発生時の危険度を下げられるのか。火災、水害などもしもの事態に直面したとき、自分がとるべき行動とは。自然災害の多い国に住んでいる私たちは、もしものときにそなえて知っておくべきことがある。防災士であり被災地のリアルな声を全国に届け続ける著者が、いま本当に必要な知識を伝える一冊。	小川光一	ワニブックス
2	改訂版 さあ、育休後からはじめよう ～働くママへの応援歌～	「こんな本がなかった」とワーキングマザーから反響が大きかった初版の改訂版!女性活躍推進法、マタハラ対策、男性の育休取得促進、イクボスなど子育て社員に役立つ項目を追加対応。出産や育児を経験しても働き続けることを支援する法律や社会保障制度について紹介。働くママが知っておきたい情報のほか、会社とトラブルにならないためのアドバイスも盛り込む。	山口 理栄、新田 香織	労働調査会
3	わたしらしく働く!	仕事に行き詰まった時、生き方に悩んだ時、勇気を与えてくれるイチ押しの一冊。 すべての働く女性たちに贈る「おしごとバイブル」決定版!駆け出し編集者から『マーマーマガジン』を創刊、出版社を設立するまでの波瀾万丈のストーリー。『実践編』では、著者の体験に基づく、明快なアドバイスを24編を収録。自分らしく働くためには何をすればいいのか、逆境に陥ったときどう乗り越えればいいのか、楽しく長く働き続けるためのコツとは。	服部みれい	マガジンハウス
4	人間だから、一緒だよ。 介護家族と子育てママの共通点	千葉県の民家で赤ちゃんからお年寄りまでの居場所づくりをめざし、『いいさん家』を開所。その生活の中で感じた育児と介護の共通点。やっぱり人間なんだな。一緒なんだな。介護に奮闘する家族への応援エッセイ。	石井英寿	パレード
5	戦争は女の顔をしていない	ソ連では第二次世界大戦で百万人をこえる女性が従軍し、看護婦や軍医としてのみならず兵士として武器を手にして戦った。五百人以上の従軍女性から聞き取りをおこない戦争の真実を明らかにした、ノーベル文学賞作家の著書。	スヴェトラナ・アレクシエ ヴィチ、三浦みどり	岩波現代文庫
6	魂の退社 会社を辞めるということ。	50歳、夫なし、子なし、そして無職…。しかし、私は今、希望でいっぱいである。大学卒業以来、28年間勤めていた朝日新聞社を辞めた著者が、会社を辞めてみて身の回りに起きたこと、「会社で働くこと」について語る。	稲垣 えみ子	東洋経済新報社
7	九十歳。何がめでたい	御年九十二歳、もはや満身創痍。へトへトでしぼり出した怒りの書。自ら災難に突進する性癖ゆえの艱難辛苦を乗り越え92年間生きて来た著者だからからこそ書ける緩急織り交ぜた文章は、人生をたくましく生きるための箴言も詰まっっていて、大笑いした後には深い余韻が残る。	佐藤愛子	小学館
8	心が軽くなる!気持ちのいい伝え方 「アサーティブ」な表現で人生が変わる!	かみ合わない、伝わらない、言いたいけれどカドが立つ…。自分中心にも相手中心にもならない、お互いに心地いい伝え方とは? まわりの人とさわやかな関係を無理なく築けるアサーティブな表現術を紹介。	森田 汐生	主婦の友社

9	ワークショップでつくる防災戦略	危機管理・災害・復興の研究者が防災計画策定法をつくってきた事例を交えて、ワークショップで合意を取る仕事の進め方を教える。防災だけに限らず、さまざまな仕事の場面でもワークショップの有効性が言われている。ワークショップを導入してみたいがその方法が分からない人のために事例を交えて指南。成功の秘訣は裏ワークショップにある。地区レベルから国レベルまで、さまざまなレベルの危機からの復興で活用。	田村圭子	日経BP社
10	子どもと貧困	「空腹に耐えかねてティッシュをかみしめる姉妹」「乳歯がすべて根だけになった男児」「頭がシラミだらけになった姉妹」——。取材班が半年以上かけて歩いた“貧困の現場”から、社会から孤立する子どもの深刻な実態を浮き彫りにし、解決の方途を探る	朝日新聞取材班	朝日新聞出版
11	結んで放して	4編からなるオムニバス形式のストーリー。同人誌即売会で憧れの描き手に感想の手紙と自分の作品を（よかったら読んでやって下さい）と手渡した大学生女子は、その後プロの漫画家となる。一方、憧れの人は転勤、結婚、出産を経るうちに、いつしか描かなくなっていく。そんな2人の関係を軸に、マンガを描くことに魅せられた女性たちの人生を切なくも温かく綴る。プロとしてのジレンマ、残業続きの仕事、子育てや介護、母親の過干渉など、抱えるものはそれぞれ違えどマンガ愛だけは共通。互いに触発されリスペクトし合う姿には、まさに同志という言葉がふさわしい。マンガの裾野の広がりや未来へのバトンリレーを感じさせるラストは美しい。何らかの創作に携わったことのある人なら心が疼（うず）くこと請け合い。	山名 沢湖	双葉社